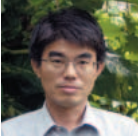


医科学研究所附属奄美病害動物研究施設周辺



服部 正策

医科学研究所 助教授

奄 美病害動物研究施設は、鹿児島県奄美大島の瀬戸内町に1970年に設置された東京大学最南の施設である。敷地は1ヘクタールの小さな施設であるが、奄美大島から加計呂麻島を望む大島海峡に面した位置に立地している。

奄美大島は鹿児島の南約400kmに位置する亜熱帯の島である。奄美空港は島の北端に位置している。空港から出発すると、ヤシの街路樹やサトウキビ畑が広がる南国らしい風景が続く。太平洋側には、サンゴ礁と白い砂浜(01)が次々と現れる。時間があれば、道路から浜に下りてみるのもいい。ふかふかした砂は本土の砂浜とはまったく違う。手に取ってみると、砂粒が大きく軽いことがわかる。ここの砂浜の砂粒(02)はサンゴや貝殻の破片と有孔虫の殻でできている。

南下すると奄美大島の本体が見えてくる。海岸まで切り立った急斜面で、平地はほとんどない。奄美大島の中南部はほとんどが森林である。ここからは、アマミノクロウサギやルリカケス(03)などの、多くの貴重な固有種が生息する森林の島に風景が様変わりする。次第に周り

の森が濃くなり、木性シダのヒカゲヘゴが目立つようになる。

森を楽しみたい人には、金作原(04)や湯湾岳がお勧めだ。そこまで上がらなくても、三太郎峠に残る旧国道(05)を峠越えすれば、奄美の大森林を満喫できる。トンネルが完成してからはすっかり静かになった旧国道は、想像以上の景観を見せてくれる。夜にはアマミノクロウサギが姿を現すこともある。

生き物が好きな人は森の中に入ってみよう。ただし長靴を履いて入ろう。この島の森には猛毒のハブも暮らしている。運がよければ、樹木に着生したランの花(06)や、本土とはまったく種類の異なるトカゲやカエル(07)を見ることもできる。

国道の終点が瀬戸内町の古仁屋市街である。ここは戦時中、海軍の基地と陸軍の防備隊があった町である。町内のいたるところに弾薬庫や砲台などの軍事施設の跡が散在する。奄美病害動物研究施設の敷地も海軍の水上飛行艇の基地の跡地である。

奄美施設の門から庭に入ると、うっそうと生い茂るガジュマル、アカ



ギ、リュウキュウマツ、シャリンバイなどが目に入る。台風の常襲地帯でもあるので、防風林を兼ねる庭の木々は伸びるに任せてある。ナンキンハゼを覆いつくすように着生しているオウゴンカズラ(ボトス)(08)は圧巻である。アカヒゲ、ズアカアオバト、サンコウチョウなどもこの庭の林で繁殖している。

研究室は三棟あり、その中にリスザル(09)やヨザル(10)の繁殖室がある。大変に愛嬌のあるかわいらしい小型の新世界ザルであるが、残念ながら一般には公開していない。ハブ(11)の飼育室には、常時50匹ほどの南西諸島各地のハブが飼育されている。多いときは実験用のハブを300匹ほど飼育する時期もある。ここで、ハブの生態を勉強しておくとう安心して奄美大島を散歩することができる。

第一棟(12)には標本室(13)があり、奄美大島の陸上生物の標本がそろっている。カヤ、ブユ、アブなどの吸血昆虫や、ハブ、ウミヘビ、ウニ類などの有毒動物の標本が充実している。サンゴの海を楽しみたい人はここで、予備知識を得ておくとう安心である。奄美病害動物研究施設の前身である伝染病研究所大島出張所で、ハブの抗毒素開発の調査研究や、島民の80%以上が感染していたフィラリア症(象皮病)の撲滅研究を行っていた当時を思い浮かべることができる。

建物を出て海のほうに歩くと大島海峡が目の前に広がる。その向こう側に加計呂麻島(14)が見える。加計呂麻島は奄美大島ほど高い山はないが、こちらもリアス式海岸の島である。ゆっくりしたい人にはお勧めの島だ。加計呂麻島までは古仁屋港からフェリーで渡ることができる。30分ほどの船旅である。人口2000人ほどのこの島では、集落はすべて海に面している。昔ながらのサンゴの石垣があったり、ノ口神の祭りで使われたアシャゲと呼ばれる小屋があったり、とてもどかで落ち着いている。集落の海岸には、樹齢300年を越すガジュマル、

デイゴ(15)、アコウなどの防風林がある。その下でゆっくり海を眺めるのもいい。

帰りに国定公園に指定されているマングローブ(16)を見ておこう。遊歩道を降りると、マングローブの泥の上にトビハゼやカニなどを観察することもできる。目のいい人はひと掴みほどもある大きなマングローブシジミを見つけることもできるだろう。行動派の人はカヌーでクリークの中からマングローブ林を楽しむこともできる。

奄美大島の知名度は上がってきたとはいえ、まだまだ観光客は少ない。どこへ行っても、ゆっくりと楽しむことができる静かな島である。

01 用海岸

奄美大島最大の美しい砂浜

02 浜の砂粒

大きく丸い粒は有孔虫の殻

03 ルリカケス

奄美大島だけに生息する美しいカケス

04 金作原のヒカゲヘゴ

樹高15mくらいになる大型の木性シダが空を覆う

05 旧国道の森林

三太郎峠の旧国道周辺に残る大森林

06 クスクスラン

大径木に着生する珍しいラン

07 イシカワガエル

緑色が美しい奄美沖繩に固有のカエル

08 オウゴンカズラ

園芸植物のボトスであるが、葉は1m近い大きさになる

09 リスザル

南アメリカボリビア原産の新世界ザル

10 ヨザル

夜行性で眼球の大きい新世界ザル

11 ハブ

猛毒を持つ夜行性の大型毒蛇

12 奄美病害動物研究施設 第一棟

ハイビスカス、サガリバナ、ベルチナバナナなどの花が咲く

13 標本室

奄美大島の有害動物を中心に、多くの動物が展示されている

14 加計呂麻島

施設の南側から大島海峡越しに加計呂麻島が見える

15 デイゴ並木

加計呂麻島諸鈍集落のデイゴの並木

16 マングローブ

干潮時のメヒルギ群落



10



11



12



13



14



15



16